

第164回「産学官交流」講演会（静岡理工科大学）

『未来を動かす、地域を守る。』

～ 次世代エアモビリティと防災・環境科学が描く未来 ～

主催：静岡市清水産業・情報プラザ（指定管理者：静岡商工会議所）

共催：新産業開発振興機構、静岡市産学交流センター（B-nest）

今回は、静岡理工科大学に協力いただき、第164回の講演会・交流会を開催いたします。多数の方のご来場をお待ちしております。是非この機会に大学関係者・講演者与您交流いただき、今後の事業活動等にお役立ていただきますようご案内申し上げます。

開催日時 2026年10月26日（月）

講演会 16:00～17:30

名刺交換会（交流会） 17:45～18:30

会場 講演会 静岡市産学交流センター 6階 プレゼンテーションルーム

名刺交換会 同上

講演1 『次世代エアモビリティ（ドローン、空飛ぶクルマ）の現状と今後の展望』
静岡理工科大学 理工学部 理工学科 特任教授

エアモビリティ研究所 所長 佐藤 彰 氏

講演2 『環境・災害科学研究所の立ち上げと地域の防災』

静岡理工科大学 建築・都市デザイン学部 建築・都市デザイン学科 教授

環境・災害科学研究所 所長 中澤 博志 氏

参加料 無料

定員 会場聴講： 40人

申込方法 下記申込書に記入してFAX、e-mailで申し込み下さい。

尚、右記QRコードからも申し込みできます。

事務局 静岡商工会議所 産業振興課（担当：稲葉、堀川）

TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 E-mail:info@siip.jp

※大学側との積極的な交流を図るためにも、ぜひ名刺交換会までご出席下さい。



第164回「産学官交流」講演会・交流会 参加申込書（静岡理工科大学）

2026年10月26日（月）開催

Fax 054-352-7817

事業所名		TEL	
所在地		FAX	
参加者名	(役職名:)	(役職名:)	
e-mail			

※お手数ですがe-mailアドレスの記入をお願い致します。

※ご記入いただきました情報は、商工会議所からの各種連絡・情報提供のために利用することがありますので、ご了承ください。

講演1『次世代エアモビリティ(ドローン、空飛ぶクルマ)の現状と今後の展望』

静岡理科大学 理工学部 理工学科 特任教授

エアモビリティ研究所 所長 佐藤 彰 氏

【講演要旨】

新しいモビリティであるドローンと空飛ぶクルマは、「次世代エアモビリティ」と呼ばれ新しい航空輸送システムとして期待されています。ドローンは、「空の産業革命」として、撮影、測量、農薬散布、インフラ点検、災害調査、物流などの利用がおこなわれてきました。これにより、「低空域をどのように使うか」という社会実験の先頭に立ち、空の産業利用の道を開いてきました。空飛ぶクルマは、「空の移動革命」として、人や大きな荷物を空で移動させるために、世界各国で実用化に向けて開発が進められています。ヘリコプタのように垂直に離陸し、飛行機のように効率良く移動する新しい航空機であり、車のようにだれでも利用できる大衆化を目指しています。本講演では、ドローンや空飛ぶクルマの歴史を振り返りながら、現在の研究の現状や問題点を述べ、今後の進む方向性について話をおこないます。また、静岡県や本学エアモビリティ研究所でおこなわれている「次世代エアモビリティ」の実用化に向けての取組や研究内容についても述べさせていただきます。



【略歴】

京都大学工学部航空工学科卒業後1982年ヤマハ発動機へ入社。ジェットエンジンの研究や無人ヘリコプタの制御装置開発などに従事し、2019年にはその功績が評価され文部科学大臣賞を受賞。2018年に静岡理科大学にて勤務を開始。博士(工学)(京都大学)。2023年～2024年「静岡県次世代エアモビリティWG」の委員長に就任し報告書作成。2023年～2025年日本ヘリコプタ協会会長、現在 日本無人航空機検査機構理事、日本産業用無人航空機工業会顧問、日本エアモビリティ総合研究所アナリスト他。

講演2『環境・災害科学研究所の立ち上げと地域の防災』

静岡理科大学 建築・都市デザイン学部 建築・都市デザイン学科 教授

環境・災害科学研究所 所長 中澤 博志 氏

【講演要旨】

2024年4月、先端科学融合研究所の7部門研究所の一つとして「環境・災害科学研究所」が発足しました。本研究所は、環境変動や複合災害が顕在化する現代において、学際的研究と社会実装を通じて、地域社会のレジリエンス向上に寄与することを目的としています。具体的には、「ハード・ソフト両面の防災・減災対策の体系化」「地域知の向上と住民参加型の防災力強化」「行政・企業・教育機関と連携した人材育成」を重点領域として位置づけています。近年、都市化や地球温暖化に伴う災害リスクは複雑化し、従来の技術的対策だけでは十分に対応できない局面が増えています。生命・財産・社会基盤を守るためには、科学的知見に基づく技術開発に加え、地域社会の構造や人の行動特性を踏まえた総合的なアプローチが不可欠です。本講演では、研究所の設立趣旨と今後の方向性、そしてすでに始動している取り組みの一部を紹介しながら、「地域の防災力をどう高めるか」「産官学がどのように連携すべきか」について議論を深めたいと思います。



【略歴】

東京理科大学大学院理工学研究科土木工学専攻修士課程修了。建設コンサルタント会社勤務を経て、東京理科大学助手、港湾空港技術研究所にて空港耐震化プロジェクトリーダーを務める。その後、防災科学技術研究所先端的研究施設利活用センター室長を歴任し、2021年より静岡理科大学に着任。2026年より建築・都市デザイン学部学部長。現在、高知大学客員教授、静岡大学客員教授を務めるほか、静岡県環境影響評価審査会特別委員、静岡市史跡賤機山古墳整備懇話会副委員長、国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所三島加茂インターチェンジ技術検討委員会委員長など行政機関の環境・防災・まちづくり・人材育成に関わる委員を多数兼任。博士(工学)。